

- はじめに -

国語科書写 として

国語科書写は、三領域一事項という国語科の構造の中で〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に位置する。この位置づけは、書写が言語の学習として機能すべき存在であることを意味する。すなわち書写は、言語記号としての文字の字形や書き方を学習対象とし、三領域一事項の各学習と直接的、間接的に関連しながら、「国語を適切に表現し正確に理解する能力の育成」等、日常に生きる言語能力の育成を目指すという国語科の目標達成にかかわっているのである。

この点をふまえれば、書写の学習指導と評価が、日常的な筆記具である硬筆書写を中心としたものでなければならないことは明らかである。毛筆を使用する書写の指導は、学習指導要領に「硬筆による書写の能力の基礎を養うようにすること」とあるように、硬筆書写力育成のためと位置づけられている。学習指導と評価を一体化させて、日常に生きる硬筆書写能力を系統的かつ確実に育成していきたい。

年間指導計画 作成のために

平成24年4月から施行される学習指導要領では、書写の指導に担当する授業時数を、第1学年と第2学年がそれぞれ20単位時間程度、第3学年が10単位時間程度と設定しており、年間をとおして毎週1時間という実施形態は難しい。しかし、書写が系統的な技能を扱う領域であることを考えると、ある程度連続した設定が望ましい。少なくとも単元・教材単位でのまとまった実施が求められる。特に第3学年は、年間10単位時間程度の実施であるので、連続した設定は欠かせない。各学校の実情に応じて、学期ごとに書写週間を設定するなどして、短期集中形態で行うことも考えられる。

評価計画作成 のために

各単元の教材には、生徒につけたい力としてそれぞれ目標が設定してある。この目標は技能目標であり、それにしたがって学習指導が計画され、評価規準がつくられている。目標から評価までの流れを徹底して一貫させているのは、書写技能を一つひとつ確実に習得させていくことによって、日常に生きる書写力を段階的に育成することを目指しているからである。

したがって、「『手本』に似ているかどうか」という技能の見えない漠然とした評価や、「うまいと感じられるか」といった主観的な評価は、書写技能の習得を確実なものにはできないので、避けなければならない。

また、書写の授業では、教師から生徒へ教科内容を伝授しようとする傾向が強く、生徒はとかく受け身になりやすい。生徒の主体的な学びを大切にするためには、「思考」「気づき」「学び合い」などを学習に積極的に取り入れることによって、「関心・意欲・態度」や学び方の学習という側面の評価も確実に行うことが必要となろう。

- 資料の見方 -

- 資料Ⅰ) 年間学習指導計画作成資料(案)では、各単元の教材ごとに、配当時数と重点目標、評価の観点に沿った具体の評価規準を示している。
- 資料Ⅱ) 評価計画作成資料(案)では、書字活動への関心・意欲・態度を育て、言語技能を伸ばしていく国語科書写の性格から、すべての学習者が実現する必要がある「おおむね満足できる規準」としてのB規準を示すとともに、努力を要すると判断される学習者に対する支援の手だて(☆)を添えた。
- 「関心・意欲・態度」の評価規準
当該の教材で育成すべき言語技能に合わせて設定するものであるため、学習指導要領の「2内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)〕と、資料Ⅰで示した各教材の重点目標に基づいて設定した。
- 「言語についての技能」の評価規準
学習指導要領の「2内容」〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(2)〕の第1学年の指導事項「ア」「イ」、第2学年の指導事項「ア」「イ」、及び第3学年の指導事項「ア」と、資料Ⅰで示した各教材の重点目標に基づいて具体的に示した。
- 評価方法
例として以下のものを示した。
 - 〔行動の観察〕 学習の中で求められている「行動」(話し合い、反応等)が行われているかどうかを「観察」することにより評価する。
 - 〔書字活動の観察〕 机間指導等により、書いている(「書字活動」)学習者の様子(姿勢・執筆)を「観察」することにより評価する。
 - 〔書字活動の点検〕 机間指導等により、制作物を書いている(「書字活動」)過程で、求められている評価規準を満たしているかどうかを「点検」することにより評価する。
 - 〔制作物の確認〕 書字活動により書かれた文字・文・文章(字間・余白を含む)が求めている評価規準を満たしているかどうかを、教科書への書き込みやワークシート、毛筆大字などの制作物を「確認」することにより評価する。
 - 〔制作物の分析〕 書字活動により書かれた文字・文・文章(字間・余白を含む)が求めている評価規準を満たしているかどうかを、教科書への書き込みやワークシート、毛筆大字などの制作物を「分析」することにより評価する。